



1月号

写真：「子どもの理解研修Ⅴ（予防的生徒指導の実際）」

◆1ページ

- ・研修紹介「子どもの理解研修Ⅴ（予防的生徒指導の実際）」
- ・学校紹介（五日市南中学校）

◆2ページ教育最前線

- ・Ⅰ「アクティブ・ラーニング」を見据えた授業『高校国語科』
- ・Ⅱ 教育委員会発！情報FLASH
「授業改善推進校の取組紹介（幟町中学校）」

研修紹介

生徒指導の三つの機能を生かした授業・学級づくり

「子どもの理解研修Ⅴ（予防的生徒指導の実際）」では、生徒指導の三つの機能（①児童生徒に自己存在感を与える ②共感的な人間関係を育成する ③児童生徒に自己決定の場を与える）を生かした授業・学級づくりの視点を得ることをねらいとして研修を行いました。

研修2日目は、亀崎小学校 野地香苗 教諭の授業と実践を基に、授業参観・協議を行いました。野地教諭は、スモールステップで目標を設定し、子どもができるようになったことを意識的に価値付けて評価することで自己肯定感を高め、子ども一人一人の理解に努めながら、生徒指導の三つの機能を意識して、日々実践を積み重ねておられます。

研修では、授業の中で生き生きと活動する子どもたちの姿が見られ、日々の積み重ねを表しており、学びの多い研修となりました。

受講アンケートより

野地先生は、授業の中の個人思考に入る場面で、「分からない人」と聞くのではなく、「すぐに取り組みえない人」と聞いていました。また、挙手した子に対しては、「あとから行くね。」と伝えて、安心させていました。声かけの様子からも子ども一人一人を大切にしている姿勢が伝わってきました。そういった姿勢を見習っていきたいです。

学校紹介

「挨拶の充実」から始める学校生活の充実 五日市南中学校



全校集会で共通指導

五日市南中学校では、平成26年度より『日本一の挨拶』ができる学校に取り組んでいます。挨拶のポイントとして、

- 「先言後礼」で
- 「1 立ち止まる」「2 相手を見る」「3 心を込める」「4 笑顔で」

を意識して行うよう指導しています。



校門の挨拶ゾーン

写真のように様々な取組を行っていますが、指導する際に大切にしているのは、「生徒に評価を返す」ということです。学校の先生からはもちろんですが、地域や保護者、来校者からの声を積極的に生徒に伝えていきます。そうすることで、生徒が挨拶のよさに気づき、自然に、自主的に挨拶ができる心を育てています。実際、学校の来校者に対して、多くの生徒が、挨拶のポイントを押しえて行うことができています。

この挨拶への意識の向上は、他の取組（無言集合・無言清掃等）にも良い効果が生まれ、学校生活の充実につながっています。



保護者や地域の方も参加して行うオアシス運動



下校時の挨拶ゾーンでの校舎への「礼」



よい挨拶をした生徒に渡す「good greeting card」



「good greeting card」を規定枚数集めると「good greeting 賞」を授与

主体的に話し合うための3つの話合いの要件

美鈴が丘高等学校
大関 真由香 教諭の実践より

生徒が主体的・能動的な話し合い活動を行うためには、話し合いの要件を意識して、活動を仕組むことが大切です。話し合いの要件とは、**話題設定の工夫**、**表現ツールの活用**、**振り返りの場の設定**等があります。今回は、主体的な話し合い活動が行われた美鈴が丘高校の大関真由香教諭の授業から、その具体を紹介します。

単元の目標

○文章を読んで「運命」について批評することを通して、虎への変化という運命を受け入れていった李徴の生き方について自分の考えを深める。

3つの話し合いの要件とその具体

話題設定の工夫

話し合う価値のある話題
多様な考えが想定される話題

話題：李徴の虎への変化は「運命」か、また李徴の発言・行動に共感できるか

表現ツールの活用

自他の考えの違いが明確に見えるツール

座標（グラフ）
横軸：「運命」か否か
縦軸：李徴への共感度

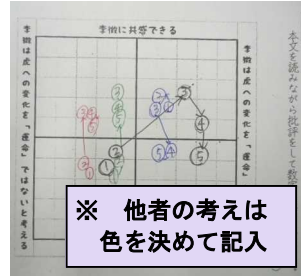
振り返りの場の設定

自分の考えの深まりの自覚

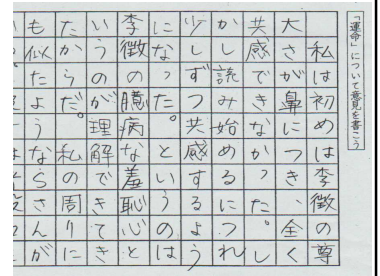
場面ごとの座標への書き込みを基に、200字の意見文作成

教材「山月記」のあらすじ

若くして高級官僚となった秀才、李徴は詩人として名を残そうと考え辞職し、詩作に専念した。が、これに挫折し、仕方なく地方の役人になったものの、ついに発狂し消息を絶つ。翌年のある月夜、旧友の高官、袁俊は虎に襲われるが、その正体は李徴であった。李徴はこれまでの経緯を話し、姿を消す。



※ 他者の考えは色を決めて記入



教育最前線 | 教育委員会発！ 情報FLASH

指導第二課から

探究的な学習の充実 ～整理・分析の活動を通して～

幟町中学校

思考力・判断力・表現力の向上のために総合的な学習の時間では探究的な学習の充実が求められています。

探究的な学習の4つのプロセス

「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」

探究的な学習のプロセスのうち「整理・分析」の過程が不十分で、調べたことをまとめたり発表したりするなどの「まとめ・表現」の過程に重点が置かれる傾向があります。「整理・分析」の過程では、目的に沿って収集した情報を比較したり、関連付けたりして自分の考えを明らかにするとともに、意見交流をする中で、考えを更に深めていくことが大切です。

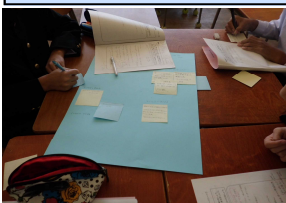
今年度、授業改善推進校として総合的な学習の時間の研究に取り組み、思考の深まりを図った幟町中学校の「整理・分析」の場面を紹介します。

「整理・分析」の場面

平和をテーマに、沖縄戦について探究したグループの例

①可視化

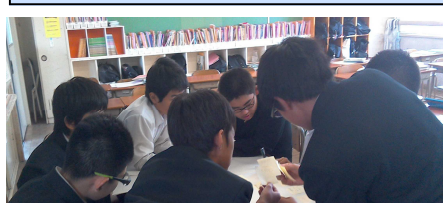
自分の考えを付箋に書く



生徒A
「ぼくが考えたことは、沖縄戦は死者が12万人と多いことから、悲惨な戦場だったということです。」

②交流

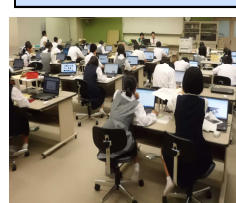
お互いの考えを知り、意見を言う



生徒B 「A君は12万人を多いと言ったけど何と比べて多いの」
生徒C 「広島の方が多いんじゃない」
生徒D 「人口によって違うから割合で調べればいいんじゃない？」

③情報収集

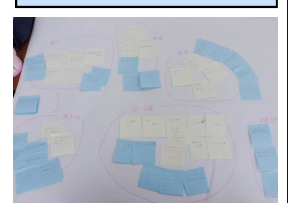
新たな疑問を調べる



生徒A
当時の沖縄県の人人口を調べて、12万人の死者の割合を計算する。

④修正

根拠を明確にする



生徒A
「沖縄戦では当時の沖縄県民の4人に1人がなくなっている。やはり悲惨な戦争だったと言える。」